

競技規則の要点 「小学生低学年の部」

1. 競技場について

- ① 塁間は、16mで実施する。
- ② コーチーズサークルは、設けない。(コーチャーは立てない)

2. 用具について

- ① 試合に使用する用具(ボール・バット・バッティンググローブ)は主催者で用意する。(グローブは、各自で用意する。金属スパイクは禁止。)
- ② ボールは、ケンコーティールボール11インチゴム製を使用する。

3. チーム編成とプレイヤー

- ① プレイヤーは、10人とする。エキストラヒッター(打つだけの選手)は採用しない。
- ② 基本的守備位置については、競技規則で確認しておく。
- ③ メンバー表の交換は、特に行ない。
- ④ 背番号を必ずつけて、メンバーが確認できるようにする。

4. 試合について

<予選トーナメント・リーグ>

・試合は3イニング(30分)とする。ただし、30分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない(時間制限により2イニングの場合もある)。

・勝敗がはっきりしている場合に限り、3回裏の攻撃を省略することもある。

(トーナメント戦) 試合が終了した時点で同点の場合は、タイブレーク(満塁：走者8、9、10番打者、打者3人：1～3番打者)を行う。

(リーグ戦) 勝ち点制を採用する。(勝ち：2点、引き分け：1点 負け：0点)

勝ち点が並んだときは、選手5人の抽選で順位を決定。

<決勝リーグ>

試合は、2イニング(25分)で実施。勝敗がはっきりしている場合、2回裏の攻撃を省略する。その他、予選リーグに準ずる。但し、勝ち点が並んだとき、3チームによるタイブレーク(満塁：走者8、9、10番打者、打者3人：1～3番打者)を行う。

① 全員攻撃制の実施

両チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代する。3イニング（または2イニング）を終えたときに、得点の多いチームが勝者となる。残塁の走者は次の回に受け継ぐ。（最終回を除く。）

1回・2回の最終バッターのとき、フライを打った時やフォースプレーが行われた場合、塁上のランナーはホームインできない。

- ④ 次の試合のチームは、前の試合が終了するまでに移動や準備を完了しておく。
- ⑤ 試合を迅速に進めるため、フィールドイングとボール回しは禁止する。

5. 打者(バッター)についての主なルール

- ① 「プレイ」の宣告後、10秒以上経過したとき、ストライク。
- ② 打つときに、軸足を2歩以上動いたとき、ストライク。
- ③ ボールに触れずにバッティングティーを打ったとき、ストライク。
- ④ バントは禁止。バントやプッシュバントと球審が判断したとき、ストライク。
※ 故意に、スウィングを遅くしたときもストライク。
- ⑤ 2ストライク後、打球がファールボールとなったとき、アウト。
- ⑥ バットを放り投げた場合、球審の判断でアウトにすることもある。

6. 走者(ランナー)についての主なルール

- ① 離塁は打者が打撃した後とし、違反した場合はアウトになる。
- ② 盗塁は禁止。（タッチアップは認められる。）
- ③ スライディングは禁止、すべての塁で駆け抜けを認める。ただし、進塁の意思があると判断された場合はその限りではない。
- ④ インフィールドフライはなし。

7. ボールデッドについて規定

- ① プレイが一段落した段階（守備側の内野手がボールを保持し、攻撃側の走者が進塁の意思を見せずに止まったとき）で、ボールデッドの判断をする。

※ その他のルールについては、「公認ティーボール規則」に準じて実施。
ただし、ティーボールの理念から、状況に応じて特別な配慮をすることもあります。その場合は、審判の指示に従ってください。